

したまち

心のふるさと 祈りのお山
高尾山薬王院

都内の天気

で会上野 来月 上映 フクシマ伝える高校生追う

映画の一場面。「種まきつさぎ」のタバストリーと一緒に作った福島や静岡、高知の高校生たち(種まきつさぎ製作委員会提供)



東京電力福島第一原発事故の後、福島のことを知って、もらおつと行動を起し、全国各地の同世代と交流した高校生たちを追ったドキュメンタリー映画「種まきつさぎ」(森康行監督)が三月二日、台東区の上野区民館(池之端一)で上映される。

核兵器の廃絶を訴える市民団体「上野の森」に「広島・

長崎の火」を永遠に灯す会(事務局・文京区本郷)が主



上野東照宮でとまれ続けている「広島・長崎の火」

催。一九五四年三月一日、静岡県の遠洋マグロ漁船が太平洋のマーシャル諸島ビキニ環礁で米国による水爆実験で被ばくした「ビキニデー」にちなむ集会「GOー誓いの火 春のつどい」のメインプログラムだ。

全国で自主上映されているこの映画は、水爆実験で被災したマーシャル諸島で、「あなたは福島のことを伝えて、それから何をやるの?」と現地の人に問い掛けられる場面もある。ナレーションは女優の大竹しのぶさん。

原爆投下直後の残り火がルーツの「広島・長崎の火」は、上野東照宮(台東区)でとまれ続けている。この火を守り、核のない世界の実現を訴えようと、集会は毎年開かれている。灯す会の常任理事川村元延さん(左)は「映画に登場するのと同じような、若い世代にぜひ『種まきつさぎ』を見てほしい」と呼びかけている。

集会は午後六時半から。簡単な映画の解説もある。資料代五百円。問い合わせは、灯す会事務局＝電話03(38118) 61511＝へ。(井上幸一)